



90人の小学生を前に、お米のこと、米作りのこと、たくさん話されました



10月2日、上郷小学校の2年生が稲刈りの見学にやってきました。地域を知るといいう学習です。約90人の児童が学校から歩いてきました。

いいで何粒のお米がでましますか

大型のコンバインでの収穫作業を間近に見ることができて、とても嬉しそうでした。農業法人の理事長杉山さんが、お米の種類、何に使われるのか、どうやってみんなの食べ物になるのかわかりやすく説明していました。

児童からは予想外の質問もありました。「何粒のお米がとれますか」これには杉山さんも答えに困りました。一緒に来られていた教頭先生によると、「児童の考える単位は何グラムとかではなく、数えられるものになるでしょう。だから粒なのです。」そうなんです。ところが、私たちは粒で考えたことはありませんでした。



上郷小学校から、並んで歩いてきます

折角の考えるチャンスをもたらしたので、試算してみました。精米と玄米の差はありますが、一合150グラムは

およそ1万粒であることが分かりました。収穫量を10アル当たり500kg(8俵強)として、その250倍と計算しました。その結果、およそ83億粒がこの農地で収穫されることが計算できました。この数字を、小学校2年生に理解してもらおうのはかなり難しいかもしれませんね。

もうひとつ杉山さんが児童に教えたのは、田んぼの周りの豊かな自然環境です。たとえば、たくさんの生き物のことです。コンバインが動くにつれて、シラサギが歩いて来るのは、餌を食べに来るのだと聞かされたのですが、あまり納得している様子ではありませんでした。

その時に、シラサギがカエルを捕まえて、一飲みにしたのをちゃんと見てくれたでしょうか。ここにも厳しい自然の営みがあるのです。私たちの当たり前の日常の中に、たくさんの学びの機会があります。



よく見ると、何かくわえています

前代未聞「ウンカ被害」深刻



黒い焦げ跡になった水田（岩屋地区）

テレビや新聞等で伝えられているウンカ被害、大変な影響を及ぼしそうです。市北部阿東地区では被害は甚大で、農家によっては、自己消費の米すらおぼつかないという状況です。

上側の写真は隣の岩屋地区の圃場です。彼岸前に刈り倒した稲を焼却されていきました。被害の拡大を抑えるには他に方法がなかったのですが、農家にとっては苦しい決断だったに違いありません。

一説によると大陸からの偏西風で飛来したと言われる「トビイロウンカ」、

古来の「案山子」ではないけれど



見るからに楽しそうな雰囲気

ここは美祢市美東町真名市です。県道沿いの花壇に、面白い形の案山子のような、そうでないような不思議な人形があるのに気が付きました。

地域の花壇らしく、周辺はコスモスが植えられ、きれいに整備されています。その一角にあるのが、この人形たちです。みんなそれぞれ違う色で、違う形、顔の作りも古来の案山子などよりもはるかに、凝った作りです。

背中には、それぞれ何か背負っていますが、よく見ると「炊事用のざる」のような日用品で作られています。ユニークな人形たちに、拍手です。

活動が活発なので、追加の料金

毎年10月に、環境保全活動について参加者の傷害保険を更新します。当初は民間の保険を利用していましたが、特定の保険が利用できるようになっていきました。

前年の実績を基に保険料を納めて、年度が終わるころ（保険の年度は10月）に、精算します。今年度（令和元年10月から令和2年10月）では予想を上回る活動となっており、保険料の追加となりました。

活動が活発だった証拠です。



中国地方でも山口県は被害が重

大のようです。写真は下関市豊北町瀧部地区の圃場です。枯れてしまった稲を刈り払機で刈り倒しておられました。当地区では、

早生品種の一部分に出たようですが、大事に至りませんでした。計画的で徹底した防除が功を奏したのではないのでしょうか。

農環境の保全は自然との闘い

農環境の保全は当会の大事なテーマであり、目標です。稲策中心の都市近郊型の農業というのがこの地の特徴です。近郊にはそういうことになら

ないところも少なからず存在します。鑄銭司の南側、山口南総合支援学校の周辺では、稲作を放棄した農地が一面のセイタカアワダチソウの海になっていました。

このような状況になると、元の農地に戻すことは、膨大な時間と労力が必要になるでしょう。改めて、環境保全の大切さを実感します。



これほどの広さが黄色一色に